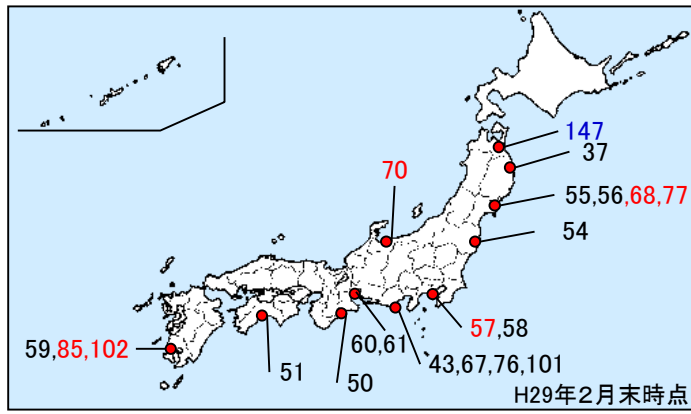


# 遠洋まぐろはえ縄漁業

## 漁業の概要

120トン以上の漁船で、全長約150kmの幹縄に2,500~3,000本の釣り針の付いた枝縄を垂らしてマグロ類等を漁獲する。投縄に約4時間、マグロ類等がかかるまでの待機に2~3時間、揚縄に10~12時間を要する。



計画数: 21件(実証終了: 14件、実証中: 6件(全体計画含む)、実証予定: 1件)

## 取組と成果

### 【生産性向上】

- 単価の高いメバチを効率的に漁獲する超深縄漁法の導入による生産金額の向上。
- メバチ操業中、メカジキ好漁期はメカジキ操業へ切り替える操業計画の変更による操業効率の向上。
- 漁業者自らが漁獲物を加工・製品化し、自ら経営する店舗で販売する6次産業化の取組みによる生産金額の向上。

### 【コスト削減、省力化、安全対策】

- 二元冷凍システム(2種の冷媒を別々の冷凍機で冷却)及びマホービン魚艙の導入等の省エネ設備を採用した改革型漁船等によるコスト削減。
- 餌搬出経路の短縮化等による労働負荷の軽減。
- 船体復元性の向上、大型波返し等の安全対策。

### 【高品質化、販路開拓】

- 解凍時にドリップの発生を防止するスラリーアイス※凍結等による品質向上。※スラリーアイス: 微小な氷粒子と塩水等が混ざり合った流動性氷。砕氷に比べ急速かつ均一に冷却し、高鮮度維持が可能。
- 水産物接触面をゴムやアルミ等の高抗菌性素材とする世界的衛生基準に対応した改革型漁船の漁獲物を米国・EU等へ直接輸出することによる新たな販路開拓。

### 【魚食普及、地域貢献】

- メカジキメンチコロッケ等の学校給食向け商品を開発し、一部漁獲物を給食向けに納入することによる食育活動の実施。
- 新たな地域での水揚げ等による地域活性化。

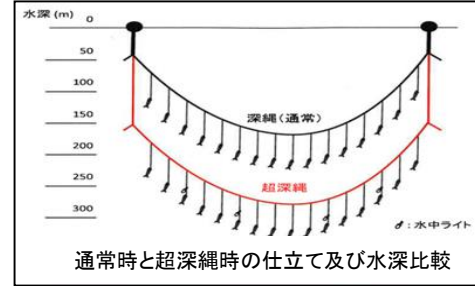
### 【混獲生物対策】

- 青色染色疑似餌、二重トリポールの設置等の新たな海鳥混獲対策措置の実証。

## 今後期待される取組

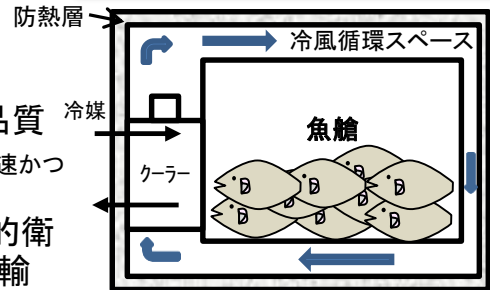
- 4経営体共同の新会社設立に伴う経営体の再編・統合により、操業計画の見直し等による収支の安定化と複数隻のキャッシュフロー集約による代船建造等の設備投資の実現、僚船の情報・技術の共有化による漁撈技術の向上、若手乗組員への技術の伝承・教育訓練水準の向上、資材共同購入等による経費削減等。

### 超深縄漁法の導入



### マホービン冷却システム

冷風循環スペースで魚艙を包む



### 海外市場への直接輸出

- 外地基地から第三国へ直接輸出
- 品質の高さと安全性をアピール
- 販路開拓と転載費用の削減



### 企業化法人の新設

経営体の再編・統合による収益力・信用力の向上と経営継続可能な「遠洋鮪延縄漁業モデル」の実現。

4経営体共同の新会社設立。  
4経営体の所有船9隻を新会社へ移籍。9隻中3隻を減船